

155mのバナナボートが完成！



バナナボートの完成を喜ぶ参加者

つがるの雪を楽しむイベント「地球村冬物語」が2月10日、つがる地球村国際交流広場で開催されました。

お馴染みとなった目玉イベント「ロングバナナボートづくり」では、市内外から来た家族連れ約600人が155mの長さに挑戦しました。用意した材料は、バナナ969本、つがる市産の米粉入りスポンジ生地534枚、生クリーム200kg。みんなでスポンジ生地の上にクリームを絞ってバナナを並べ、スタッフの合図で一斉に生地を巻いて見事完成。総重量505kgのバナナボートを全員で持ち上げ、完成を喜びました。内山花恋さん（9歳）は「みんなで巻くのが楽しかった。早く食べたいな」と話していました。

雪だるま作り大会や雪上網引き大会など冬ならではのゲームが行われたほか、会場では津軽半島の道の駅など8つのブースが自慢の味を販売。よさこい知求群会の演舞なども行われ、来場者は楽しい1日を過ごしました。

くらしの工夫展 力作ずらり

市生活改善グループ連絡協議会（中村嘉子会長）主催の「くらしの工夫展」が2月8日、松の館で開催され、多くの市民らでにぎわいました。

会場には、地元農産物を使った料理や暮らしに役立つアイデア作品など191点を展示。昨年度のコクーン入賞作品など3品の調理実演も行われ、多彩な知恵や技術を生活に取り入れようとメモを取る女性の姿も見られました。

そのほか、市内の生活改善グループや女性団体が旬の農産物や加工品、手作りの農作業衣などを持ち寄って販売し、自慢の技を交換しながら交流を深めていました。

※28ページで、展示された主な作品を紹介しています。



気に入ったアイデアを書き記す来場者

来館者70万人を突破

1月25日、市立図書館の来館者が70万人に到達し、「来館者70万人達成セレモニー」が行われました。

70万人目となったのは、五所川原市在住の小野椎名さん。この日は、次女の小春ちゃんと2人で来館しました。絵本が好きな子どもたちと一緒に毎週のように本を探しに来ているそうです。セレモニーでは、葛西館長から記念品が贈られ、椎名さんは「びっくり。これからも変わらず通い続けます」と話していました。平成28年7月に開館した同図書館は、平成30年4月には来館者50万人を突破。今回の70万人達成に葛西館長は「多くの方に活用してもらって喜ばしい。蔵書を充実させ、より利用しやすい図書館にしていく」と抱負を述べました。



葛西館長から記念品を受けとる小野さん

豪華列車「四季島」の乗客歓迎に感謝状

昨年4月～9月、計18回にわたってJR東日本が運行する観光列車「トランスイート四季島」の乗客が、ツアーでJR木造駅に訪訪。その際、登山囃子の演奏やプレミアムメロンの振る舞いなど地域色を出した出迎えと見送りで乗客をおもてなししたとして、JR東日本から市と市登山囃子保存会（花田了会長）に感謝状などが贈られました。

2月13日に市役所で行われた贈呈式では、JR東日本の菊地正秋田支社長が福島市長と花田会長へ記念品を贈呈。菊地支社長は「お客様からは、地域の方のお出迎えに感動したとの声をいただいた」と感謝の言葉を述べました。

花田会長は「喜んでもらえてよかった。次はもっと腕を上げて披露したい」と応えていました。



菊地支社長(右から2人目)から記念品を受け取った福島市長と花田会長(同4人目)ら



登山囃子で乗客を見送る保存会メンバーら(昨年4月18日)

40代になっても日本一に

モトクロスで日本を代表し世界でも活躍している成田亮選手(38歳・木造川除地区出身)が、全日本モトクロス選手権最高峰の国際A級(IA)通算155勝、年間王者12回(いずれも歴代最多記録)という快挙を成し遂げたことを2月18日、福島市長に報告しました。成田選手は中学2年生で国際B級のチャンピオンとなり、中学3年生でプロの道へ。それ以来、数々の全日本記録を塗り替え、20代引退が珍しくない厳しい世界の中、現在もトップで活躍し続けています。成田選手は「40代になっても日本一を取りたい」と抱負を述べ、市に対して「いろんなスポーツで活躍できる人が増えればと思っている。子どもたちが一生懸命頑張れる環境を整えて欲しい」と話していました。



ご両親と報告に訪れた成田選手(左から2人目)

心の中の鬼は外!

2月1日、市内の保育施設で豆まきや恵方巻き作りなどの節分行事が行われました。

かしわこども園(鳳至真貴園長)では、手作りの鬼のお面と豆入れを身につけた125人の園児が、豆まき会を楽しみました。はじめに節分の由来を学習した園児たちは、心の中にいる「怒りんぼ鬼」や「夜更かし鬼」などを退治しようとする約束。鬼が登場すると園内は大騒ぎになり、一目散に鬼から逃げてしまいましたが、勇気を振り絞って鬼に豆をぶつけていました。泣いていた園児らも童謡「豆まき」と「鬼のパンツ」を元気に合唱し、鬼を追い払いました。羽石瑞貴くん(5歳)は「今回は泣かなかった。泣き虫鬼を退治できた」と話していました。



元気に豆をまく園児